

## HOWS：本郷文化フォーラムワーカーズスクール《講座紹介》2011年度本科前期（2011年5月7日(土)～9月21日(水)）

# ●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

## 1、壊憲阻止！ 平和で安全に生存する権利の保障を

昨年5月18日、3年間の猶予を経て「国民投票法」＝壊憲手続法が施行され、改憲に向けて大きく舵が切られた。改憲派が憲法審査会を始動させれば、いつでも改憲に着手できる状況が現実化している。管内閣が、政権危機を回避するため、「戦後最大の国難」を名目に「震災挙国一致内閣」を作り、自民党の求める憲法審査会を始動させて、いっきに「改憲大連立」に向かう可能性もある。こうした情勢を確かめあい憲法運動に取り組もう。

- ①**5月18日(水) 原発停止・壊憲阻止！ 国民投票法の撤廃を求める5・18集会**（HOWSも実行委員会に参加）

- ②**6月18日(土) 日米安保はいらない 日本国憲法を！**—— 普天間即時撤去・辺野古新基地建設を許さない・嘉手納基地爆音訴訟
講師＝池宮城紀夫（弁護士）

- ③**6月29日(水) いま改憲情勢はどうなっているのか**
講師＝渡辺 治（一橋大学名誉教授）

- ④**8月1日(月) 第2自民党化した菅政権** <夏季セミナー>—— 壊憲・安保・原発をめぐるって
講師＝山口正紀（ジャーナリスト）

## 2、たたかう労働運動の再生、階級的強化のために

社会保険庁解体、日本航空の「整理解雇」など、労働者への解雇攻撃が強化するなか、年間最高130万円もの賃下げに対し、東京・国分寺市職員労働組合は昨年11月に約19年ぶりの一時間ストライキに突入した。いま、憲法に保障された労働者の権利（団結権・団体交渉権・争議権）をフルに活用し、官民一体となったゼネストを志向した労働運動が求められている。階級闘争の現状認識と実践の課題を論議し合い、その展望を探りたい。

- ①**5月7日(土) 日航の整理解雇は全労働者への攻撃**—— 日航1万6000人首切り・闘う労働組合潰し
報告＝村中哲也（元日本乗員組合連絡会議）

- ②**6月15日(水) 公務員労働者首切りの意味**—— 社会保険庁被解雇者からの報告を受けて
助言＝萩尾健太（弁護士）

- ③**7月31日(日) 国鉄闘争の総括と労働運動の課題**
講師＝二瓶久勝（国鉄闘争共闘会議議長） <夏季セミナー>

- ④**8月6日(土) 人事院廃止、スト権先送りに抗しスト権奪還を**—— 職場・生産点でストライキ闘争を
講師＝名児耶幸雄（国分寺市職員労働組合委員長）

- ⑤**9月10日(土) 大震災から半年、若年労働者の雇用・貧困問題は**どうなっているか
対談＝雨宮処凛（作家）
米丸かさね（ゆうメイト）

## 3、社会主義諸国の現状と針路

1980年代から90年代にかけての世界情勢の激変、大逆流に抗して生き延びた社会主義諸国は、国際共産主義運動の分裂にも規定され、帝国主義の世界支配への対応、距離の取り方で二通りに分岐した。とりわけ中国に代表される開放経済の実践は、社会主義を再生させる闘いの前途に、複雑な問題を投げかけている。巨視的に見れば、それは、朝鮮・キューバを含めて、資本主義から社会主義への過渡期の時代をどう理解するかということと密接不可分な関係にある。各国の現状をより正確に把握・認識することから始めよう。

- ①**6月1日(水) 中国「社会主義市場経済」を捉える視点（序論）**——「改革・開放」30年を経た中国「社会主義」の変貌
講師＝山下勇男（社会主義理論研究）

- ②**7月6日(水)「朝鮮式社会主義」とは何か**—— チュチェ（主体）思想の意味と背景
講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）

- ③**8月31日(水) 社会主義キューバの新たな模索**—— キューバ共産党第6回大会（4月開催）にそくして
講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム代表）

## 4、未来を切り拓く青年学生運動の再生を！

就職難、不安定雇用、貧困など、若者をとりまく状況は依然として厳しい。また、東日本大震災を受けて、政府・独占資本は、勤労人民に犠牲を転嫁して、この危機を乗り切ろうとしている。こうした状況のなかで、未来を切り拓く青年学生運動をいかにして再生していくのか、ともに探っていく。

- ①**7月16日(土) 青年学生が運動に結集する可能性を探る**—— 各現場での実践と課題を踏まえて
発言＝園 良太（フリーター全般労組）／小島鐵也（氷河期世代ユニオン）／佐々木一（青年労働者）／藤原 晃（神奈川高教組）

- ②**9月10日(土) 大震災から半年、若年労働者の雇用・貧困問題は**どうなっているか
対談＝雨宮処凛（作家）
米丸かさね（ゆうメイト）

### 5、日本の短編小説を読む

今期は大逆事件と時代閉塞の状況を主題として考える。武力革命、政治的テロリズム、国粋主義、侵略主義、知識人の役割、文学の可能性など、こんにちまなお課題としてわれわれに残されている諸問題を、大逆事件100年を機に考える。

講師＝立野正裕（明治大学教授）（各回午後7時～）

- ①**5月25日(水) 石川啄木『時代閉塞の現状』**（『時代閉塞の現状・食うべき詩』に収録、岩波文庫）

- ②**6月22日(水) 幸徳秋水『陳弁書』石川啄木『A LETTER FROM PRISON』**（『時代閉塞の現状・食うべき詩』に収録、岩波文庫）

- ③**7月20日(水) 徳富蘆花『謀叛論』**（岩波文庫）

- ④**9月21日(水) 徳富蘆花『難波大助の処分について』**（『謀叛論』に収録、岩波文庫）

## 6、HOWS文化講座

- ①**5月28日(土)『魯迅文学を読む』をめぐるって**
講師＝鎌田哲哉（『重力』編集会議）

- ②**7月23日(土) 韓国の民衆美術と労働運動**—— その実践力を見る
講師＝古川美佳（韓国美術・文化研究）

韓国では80年代、軍事独裁政権と闘う民主化運動に呼応する「民衆美術」が高揚した。民衆が美術の主体であることを謳ったこの美術運動は、やがて労働運動の闘争の場で視覚的役割を果たしていく。本講座では、民衆美術家たちがいかに労働の現場と連携し、組織化をはかりながら、美術の枠組みを超え表現しようとしたか？ その実践力を見極め、運動と芸術の関係をさぐる。

- ③**7月31日(日)「日本の短編小説を読む」（特別講座）**——『赤西蛸太』(志賀直哉作)と『赤西蛸太』(伊丹万作監督)
講師＝立野正裕（明治大学教授） <夏季セミナー>

- ④**8月20日(土) 抵抗の美術家たち**—— 近世在野の心意気 IV
講師＝日夏露彦（美術評論家）

幕末動乱期、形骸化する一方の御用絵師に対し、人民の抵抗力を伝える渡辺華山、国芳、河鍋暁斎らの奮闘。

- ⑤**9月3日(土) 続・拉致問題で歪む日本の民主主義**
講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）

## 7、原発のない社会をめざして

東日本大震災により発生した福島原発の事故は、国および東電が何の有効な対策もたてられないまま、放射能の拡散は止まらない状態にある。マスコミでは、事態の深刻さを隠すため「人体への影響は少ない」などの御用学者の弁を繰り返し流し、「風評に踊らされないように」などの逆宣伝を行ない、「挙国一致」で「国難」乗り切り、といったナショナリズムを煽っている。「原子力発電はクリーンで安全」と政府が進めてきた原子力政策は完全に破綻し、原発の輸出を企図していた原発産業の目論見も頓挫した状態だ。労働者・人民の命を使い捨てにする原発を廃棄させるために討論したい。

- ①**5月11日(水) 福島原発事故の状況・分析**—— 最大防御のために
講師＝山崎久隆（たんぼぼ舎）

- ②**6月8日(水) 福島原発多重人災の責任追及**—— 原子力政策の断念を求める
講師＝槌田 敦（物理学者、核開発に反対する会代表）

- ③**7月13日(水) これからの反原発運動とマスコミ報道批判**
講師＝柳田 真（たんぼぼ舎）

## 8、この人にきく

- ①**5月21日(土) 尖閣列島／釣魚島問題をどう見るか**
講師＝村田忠禧（横浜国立大学教授）

- ②**7月2日(土) 起ち上がったトルコ労働者の闘い**—— 映画『抵抗者』（トルコ 50分）を上映
講師＝イナン・オネル（翻訳者）

激動する北アフリカ情勢についても報告をしていただく予定。

- ③**7月30日(土) NHKテレビドラマ「坂の上の雲」を批判する**——（『丸山論吉』神話による）日本の近代史像の全面的な見直し
講師＝安川寿之輔（名古屋大学名誉教授） <夏季セミナー>

- ④**8月27日(土) 都教委のパワハラ「分限免職」を許さない**
講師＝疋田哲也（疋田教諭分限免職処分取消訴訟原告）

- ⑤**9月3日(土) 続・拉致問題で歪む日本の民主主義**
講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）

### ◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

### ①戦後文学ゼミ

チューター＝山口直孝、松岡慶一

2000年より武井昭夫、湯地朝雄をチューターとしてはじまった戦後文学ゼミは、戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人、武井昭夫の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。最近では、竹内好の「アジア主義」批判、湯地朝雄『プロレタリア文学運動 その理想と現実』、戸坂潤『世界の一環としての日本』（1937年）、「花田清輝vs吉本隆明論争」、「花田清輝『近代の超克』をめぐるって」などを取り上げました。

2010年度後期は、武井昭夫の仕事（50年代のスカラベ - サクレ論争など）に取り組みました。以下は4月～6月の例会です。

- 日 時＝4月17日(日)
テーマ＝浅川史「魯迅文学を読む—— 竹内好『魯迅』の批判的検証」を読む
報 告＝山口直孝
●日 時＝5月22日(日)
テーマ＝田中英光「地下室から」が提出しているもの
報 告＝斉藤光太郎
●日 時＝6月19日(日)
テーマ＝武井昭夫の仕事(4)「現代日本の反動思想」(1966年)について
報 告＝逢坂秀人

### ②群読ゼミ

世話役＝小松厚子

台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。テーマは状況に応じてアップツウデイトなものが参加者の討議によって決められます。テーマが決まったら、全員がそれぞれに感銘した文言、思いを込めた文章を持ち寄ります。それを素材に台本づくり、演出、音楽、朗読などの分担を行ないます。こうしてできあがった作品は反戦平和や憲法擁護、民主主義と人権のための集会等で上演されます。ゼミの開催日時は協議のうえ、決定します。

●これまでの制作・作品には、次のものがあります。

- いま、私たちの労働現場から——グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯
- 私たちの戦争案内—— 急速に進行する戦争体制づくりに抗して
- 戦争を止めよう！—— あなたも・日常から・世界の女性と共に
- 戦争を止めよう！Ⅱ
- いま、私たちの労働現場からⅡ
- 私たちはどういう社会をつくりたいのか—— 憲法改憲は誰のため？
- 憲法改憲反対！ 忘れるな 戦争責任と不戦の誓い
- 共闘こそ力！—— 壊憲を許すな
- 先に起つのは君だ—— 戦争・失業・貧困をなくそう
- 憲法と原発—— 目を覚ませ！ 未来の世代のために
- 不安だらけの未来はいらない

●HOWS本科生・聴講生は、経験の有無にかかわらず、どなたでも参加できます。

<b>HOWS講座カレンダー 2011年度前期（5月～9月）</b>
5月7日(土) 日航の整理解雇は全労働者への攻撃 報告＝村中哲也（元日本乗員組合連絡会議）
5月11日(水) 福島原発事故の状況・分析—— 最大防御のために 講師＝山崎久隆（たんぼぼ舎）
5月18日(水) 原発停止・壊憲阻止！ 国民投票法の撤廃を求める5・18集会（HOWSも実行委員会に参加）
5月21日(土) 尖閣列島／釣魚島問題をどう見るか 講師＝村田忠禧（横浜国立大学教授）
5月25日(水) 日本の短編小説を読む 石川啄木『時代閉塞の現状』 講師＝立野正裕（明治大学教授）
5月28日(土) 『魯迅文学を読む』をめぐるって 講師＝鎌田哲哉（『重力』編集会議）
6月1日(水) 中国「社会主義市場経済」を捉える視点（序論） 講師＝山下勇男（社会主義理論研究）
6月8日(水) 福島原発多重人災の責任追及—— 原子力政策の断念を求める 講師＝槌田 敦（物理学者、核開発に反対する会代表）
6月15日(水) 公務員労働者首切りの意味—— 社会保険庁被解雇者からの報告を受けて 助言＝萩尾健太（弁護士）
6月18日(土) 日米安保はいらない 日本国憲法を！—— 普天間即時撤去・辺野古新基地建設を許さない・嘉手納基地爆音訴訟 講師＝池宮城紀夫（弁護士）
6月22日(水) 日本の短編小説を読む 幸徳秋水『陳弁書』／石川啄木『A LETTER FROM PRISON』 講師＝立野正裕（明治大学教授）
6月29日(水) いま改憲情勢はどうなっているのか 講師＝渡辺 治（一橋大学名誉教授）
7月2日(土) 起ち上がったトルコ労働者の闘い——映画『抵抗者』（トルコ 50分）を上映 講師＝イナン・オネル（翻訳者）
7月6日(水)「朝鮮式社会主義」とは何か—— チュチェ（主体）思想の意味と背景 講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）
7月13日(水) これからの反原発運動とマスコミ報道批判 講師＝柳田 真（たんぼぼ舎）
7月16日(土) 青年学生が運動に結集する可能性を探る 発言＝園 良太（フリーター全般労組）／小島鐵也（氷河期世代ユニオン）／佐々木一（青年労働者）／藤原 晃（神奈川高教組）
7月20日(水) 日本の短編小説を読む 徳富蘆花『謀叛論』 講師＝立野正裕（明治大学教授）
7月23日(土) 韓国の民衆美術と労働運動—— その実践力を見る 講師＝古川美佳（韓国美術・文化研究）
7月30日(土) NHKテレビドラマ「坂の上の雲」を批判する <夏季セミナー>——（『丸山論吉』神話による）日本の近代史像の全面的な見直し 講師＝安川寿之輔（名古屋大学名誉教授）
7月31日(日) 国鉄闘争の総括と労働運動の課題 <夏季セミナー> 講師＝二瓶久勝（国鉄闘争共闘会議議長）
7月31日(日) 日本の短編小説を読む（特別講座） <夏季セミナー>——『赤西蛸太』(志賀直哉作)と『赤西蛸太』(伊丹万作監督) 講師＝立野正裕（明治大学教授）
8月1日(月) 第2自民党化した菅政権—— 壊憲・安保・原発をめぐるって 講師＝山口正紀（ジャーナリスト） <夏季セミナー>
8月6日(土) 人事院廃止、スト権先送りに抗しスト権奪還を—— 職場・生産点でストライキ闘争を 講師＝名児耶幸雄（国分寺市職員労働組合委員長）
8月20日(土) 抵抗の美術家たち—— 近世在野の心意気 IV 講師＝日夏露彦（美術評論家）
8月27日(土) 都教委のパワハラ「分限免職」を許さない 講師＝疋田哲也（疋田教諭分限免職処分取消訴訟原告）
8月31日(水) 社会主義キューバの新たな模索 講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム代表）
9月3日(土) 続・拉致問題で歪む日本の民主主義 講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）
9月10日(土) 大震災から半年、若年労働者の雇用・貧困問題は どうなっているか 対談＝雨宮処凛（作家）／米丸かさね（ゆうメイト）
9月21日(水) 日本の短編小説を読む 徳富蘆花『難波大助の処分について』 講師＝立野正裕（明治大学教授）